

病院マネジメントからみた臨床検査の新しい価値

張替 秀郎

東北大学病院長

東北大学医学系研究科 血液内科学分野 教授

当然のごとく、検査部は病院にとって不可欠な中央診療部門であり、第一に求められるものは、確実に迅速な検査結果の提供である。現在、病院経営を取り巻く環境は年々厳しくなっており、第二に求められるものは経費を含めた運営効率である。ただし、特に大学病院のような施設においては、いわゆる診療のインフラとしての検査部だけでは不十分であり、新たな医療を創る部門であることが求められる。

具体的には、独自もしくは診療科との共同研究の推進による新たな検査の開発、医薬品・医療機器開発の支援、治験・臨床研究への貢献、バイオバンク・データバンク部門としての役割などがあげられる。このような部門であるためには、診療科・患者とのコミュニケーションが良好であること、新規医療に意欲的であること、視点を自部門だけではなく、病院全体においていること、次世代を教育するシステムを構築していることが重要である。

検査部は、直接的に診療の現場で医師や患者と接することが少ない部門であるため、職員は、機械的に検査結果を報告することで仕事が完結していると思いがちとなる。

自身が持つ大きなポテンシャルを認識し、進取の精神を有するオープンな部門であり続けることが重要である。